

主な展示資料

資料名	点数	備考
ノジュール	5	芦原久男氏寄贈
魚類化石	1	芦原久男氏寄贈
ヒゲクジラ下顎骨化石	1	蔵津亮成氏寄贈
ソロバン玉石	4	加藤亀吉氏寄贈
<i>Teredo</i> sp.	3	遠藤君子氏寄贈
火山弾	5	
<i>Mya cuneiformis</i>	2	
<i>Macoma</i> sp.	4	
<i>Conchocele bisecta</i>	10	
<i>Ancistrolepis mogamiensis</i>	1	
ヒメイヌビエほか	5	小形利吉氏採集
オオウラジロノキほか	4	斎藤 清氏採集
カンボクほか	2	平吹喜六氏採集
オオバクサフジ	1	大谷正実氏採集
シナガワハギほか	8	鈴木 暁氏寄贈
オクヤマオトギリほか	2	佐藤恒子氏寄贈
ホソバノキノチドリほか	3	石山美恵子氏寄贈
ホトケノザほか	3	佐藤滋子氏寄贈
甲虫類標本	395	30科124種類
川口遺跡出土縄文土器	2	狩野祐亮氏寄贈
川口遺跡出土イノシシ形土製品	1	狩野祐亮氏寄贈
褒賞関係資料	20	柴崎 誠氏寄贈
尾花沢検地帳(延宝元年)	1	柴崎 誠氏寄贈
御用留(安政4・5・6年、万延元年)	4	柴崎 誠氏寄贈
大名貸関係文書	2	柴崎 誠氏寄贈
教養図書	27	柴崎 誠氏寄贈
商取引・金銭の貸借文書	30	柴崎 誠氏寄贈
版木(デパート, 市場関係)	5	富樫保之氏寄贈
版木(催し物, 商店会関係)	5	富樫保之氏寄贈
版木(カバン, 靴関係)	5	富樫保之氏寄贈
版木(食品加工関係)	5	富樫保之氏寄贈

資料名	点数	備考
版木(メーカー関係)	5	富樫保之氏寄贈
版木(一般用語関係)	5	富樫保之氏寄贈
版木(衛生関係)	5	富樫保之氏寄贈
版木(温泉 その他)	5	富樫保之氏寄贈
版木(金融関係)	5	富樫保之氏寄贈
鋤 簾	2	板井角也氏寄贈
輪まわし遊具	2	鈴木嘉道氏寄贈
泥面子	10	東海林忠史氏寄贈
手づくり紙面子	5	鈴木嘉道氏寄贈
和紙人形	2	大類真理氏寄贈
きかんしゃNo.1	1	田中新治氏寄贈
きかんしゃNo.2	1	田中新治氏寄贈
山びこ学校 初版	1	田中新治氏寄贈
版画「百姓のうた」	1	田中新治氏寄贈
優等賞 賞状	1	田中新治氏寄贈
優等賞 賞品(「言海」)	1	田中新治氏寄贈
紀元2600年祝典 記念之證	1	田中新治氏寄贈
賞与辞令	3	田中新治氏寄贈
郡賞 賞状	1	淀 吉治氏寄贈
郡賞 賞品(すずり箱)	1	淀 吉治氏寄贈
優等賞 賞状	1	石島庸男氏寄贈
教育勅語図解の宣伝ビラほか	3	石島庸男氏寄贈
絵葉書「勤勞奉仕」	1	石島庸男氏寄贈
映画「山びこ学校」ビデオ	1	石島庸男氏寄贈
映画「山びこ学校」フィルム	1	独立プロ名画保存会寄贈
通俗教育大演説会入場券	1	栗田幸助氏寄贈
月謝領収書	1	栗田幸助氏寄贈

新収蔵品展

1992

2月15日(土)～4月12日(日)

山形県立博物館

開催にあたって

この企画展は、博物館の収集・整理活動のまとめとして毎年開催しているもので、この度は平成3年度中に新しく収蔵した資料や、整理の終わった資料の中から、県民のみなさまにとって興味深い、貴重な資料を選んで展示するものです。

本展を開催するにあたり、資料をご寄贈くださった方々や、収集活動にご協力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

展 示 解 説

【地 学】

鳥海山の火山弾 その山頂周辺では、しばしばひび割れをもつ岩塊を見つけることができます。これはパン皮状火山弾とよばれています。まだ内部が熱い溶岩片が、噴火口から放出されて落下後に冷えるときに、閉じ込められていた火山ガスがカラを破るようにして出てくるためひび割れができます。ちょうどフランスパンの表面のような特徴をもつため、その名前があります。いずれも1801年の噴火のときに放出された火山弾です。

中新世後期の貝類化石 中新世後期の6～700万年前の山形県は、それまでおおっていた海がしだいに浅くなっていった時代です。その時代の県南部では、飯豊町の宇津峠層からマツモリホタテ *Mizuhopecten matumoriensis*などを産する浅い海の環境でしたが、県北部では、戸沢村の古口層からオウナガイ *Conchocele bisecta*などを産するまだ深い海の環境でした。古口層からは、オウナガイが幼形から成貝まで多産します。

【動 物】

甲虫類の標本 山形県の総合学術調査会において実施した、蔵王連峰及び御所山の調査等で得られた昆虫標本の中から、整理のすんだ甲虫類30科124種類の395個体を展示しました。

展示された標本の中には、県内から初めて記録された種類として、オサムシ科のカギモンミズギワゴミムシ・クロホソナガゴミムシ・クビアカツヤゴモクムシ、タマムシ科のクロナガタマムシ、コメツキムシ科のキンムネヒメカネコメツキ・シラケミズギワコメツキ、カミキリモドキ科のアイヌカミキリモドキ・コウノカミキリモドキと8種類の標本が展示されています。他に比較的珍しい種類としては、クワガタムシ科のオニクワガタ、コガネムシ科のキンスジコガネ・オオチャイロハナムグリ等があります。

【考 古】

川口遺跡出土資料 川口遺跡は縄文時代後期の遺跡で、最上川の三難所の一つとして有名な早房(隼)の瀬に程近い村山市大字富並字下川口にあります。これらの資料は、昭和30年頃狩野正二

氏によって採集されたもので、縄文時代後期の土器のほか、東北地方でもあまり例を見ないイノシシ形土製品などが含まれています。

【歴 史】

柴崎家文書 柴崎弥左衛門家は豪農・豪商で、尾花沢念通寺角に広大な屋敷を構え、尾花沢村だけでなく郡中に広くその名を知られていました。安永9年(1781)1500俵の凶荒予備米を幕府に寄付した功によって苗字帯刀御免の特権を許され、また天保3年(1832)の飢饉の際には郡中諸式願総代として活躍しました。尾花沢には上組・中組・禁組と三つの地区がありましたが、柴崎家は上組の地内に住みながら、安政年間(1854～1859)には、乞われて禁組の名主をも勤めています。

柴崎家に残された、約3500点に及ぶ膨大な文書からは、大名に対する融資(大名貸し)や京都・大阪方面との商取引、地元村山郡での土地集積など、幅広い経済活動のようすがわかります。

まだすべての整理が完了していませんが、これまで整理の終わったものから、興味あるものを選んで展示しました。借金の証文でありながら「預り申す金子の事」としたもののや、借金の理由として「要用の儀ありて」などと、随所に巧みな表現が見られ、当時の人のユーモアのセンスに感心させられます。また抵当物件として「着類取合せ二十品半」という証文がありました。「半」とは何か、着物の半分でもあるまいし、じゅばんや羽織か、あるいは子供着だろうかなど考えると、証文を書いた人の生活苦を思いやる前に、ついナゾナゾを考えるおもしろさに誘われます。

宣伝用ゴム風船版木 昭和20年代後半から30年代後半に宣伝用に名入ゴム風船を作ったときの木版です。ラジオやテレビによる宣伝がまだ一般化していなかった時代、手軽な宣伝手段としてよく用いられました。

版木にはサクラやホオの木が用いられ、文字を彫る作業は市内の印章店に依頼していたそうです。

印刷はすべて手作業で、半分くらいふくらました風船に、版木で印刷していくもので、印刷用インクはラテックス樹脂と金属色素を混入した特殊なものでした。宣伝用風船を作る所としては山形市内唯一であり、県内はもとより、岩手県など県外のものも含

まれています。

総数約650点の版木は種類毎に約15箱に分類してあり、デパートや商店の売り出しなどの宣伝の他、メーデーや選挙の広報なども見られ、当時のくらしを物語る好資料と言えます。

【民 俗】

鋤 簾 土木、河川工事などで土砂を掻き寄せて処理する用具です。掬部の中央は竹編みや金網状で、水分を排除できる工夫がされています。

輪まわし遊具 自転車のリム(車輪の外枠)を利用した子供の遊び道具です。竹や針金を支え棒としてリムを回転させて走り回ります。一種の廃物利用で、車が少なかったでこぼこ道でのなつかしい遊びです。

泥面子、手作り紙面子 面子の一番古い形は江戸時代に作られた泥面子で、面型に粘土をつめて焼いたものです。明治に入ると鈴面子、明治後期には紙面子がつくられました。

和紙人形 舟形町長沢地区でつくられる和紙を用いた人形で、「高砂」のめでたい場面を描いたものです。

【教 育】

「きかんしゃ」創刊号・2号 戦後の生活綴り方の代表として全国に紹介された「山びこ学校」の原本です。この本はもともと現上山市の山元中学校2年生のクラス文集からとられたものですが、その文集が「きかんしゃ」という名であることは案外知られていません。今は当時の生徒すら保存している人が少なく、戦後教育の研究者には貴重な資料となっています。担任の無着成恭の「きかんしゃ」の詩や「母の死とその後」がガリ版刷りで、また2号には、その作者江口江一の製本責任者としてのことばが自筆のペン書きで書かれています。

明治～昭和初期の賞状・辞令 優等賞の賞品に、勅語や詔書またはその解説書が授与されたり、当時としては高価な出版されたばかりの辞典「言海」が使われています。昭和の郡賞はどこでもすずり箱だったようです。教員のボーナスが一律ではなく、勤勉に対する賞として、その個人に辞令が出ていたのも今では珍しいことになりました。